（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和４年度　学校自己評価システムシート（県立浦和東高等学校）

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校

重点目標	1　学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2　自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3　自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4　保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。 5　ICT 活用指導力の向上と ICT 環境の整備、学校教育活動のデジタル化を進める。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	
A	ほぼ達成（８割以上）
B	概ね達成（６割以上）
C	変化の兆し（４割以上）
D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者
学校関係者　　名
生徒　　名
事務局(教職員)　　名

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標				年度評価（　２月　１日　現在）			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	①　学習指導要領改訂に伴う新教育課程への移行を円滑に行うとともに、コロナ禍においても主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。 ②　生徒の意識改革を図り、家庭学習時間を増加させる。	①　生徒の興味・関心・意欲を引き出す授業を展開している。 ②　学習と部活動を両立させる。	①・年次研修対象者、未来学び研究者をはじめ多くの教員による積極的な授業公開の実施。 ・生徒への授業評価アンケートの実施。 ・校外で開催される各種研修会への参加。また、そこでの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ②・各教科における課題等の提示を検討し、家庭学習の時間を確保する。 ・部活前後の学習室の積極的な活用を促進する。	①・主体的・対話的な展開の授業を取り入れられたか。 ・生徒による授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ②・授業以外の学習の時間が増えたか。 ・学習室利用者は増加したか。				
2	①　遅刻、交通事故件数ともに減少させることができているが、ゼロではない。ＴＰＯを意識した言動や行動ができていない生徒が少なからず存在している。自律心と規範意識を高める指導を進める。 ②　環境整備を進め生徒の活動意欲を喚起するとともに安心・安全な学校づくり　に努める。	①　交通ルールの周知徹底と基本的な生活習慣の確立に取り組む。 ②　心身の健康、危機管理に対する意識　向上を図る。	①・定期的な立哨指導の他、危険地点での立哨指導の回数を増やす。 ・遅刻、交通事故防止の観点から１０分前登校を促す。 ・教員からの積極的な投げかけによって、生徒がＴＰＯを意識した言動、行動について考え、行動する機会を増やしていく。 ②・生徒保健委員会、学校保健委員会を通じて本校生徒の保健課題を検討し、関心を高める。 ・応急手当講習と防災訓練のつながりを意識する。	①・遅刻、交通事故件数の推移 ・指導部による日常の学校生活での観察や、担任、教科担当、部活動顧問との情報共有。 ②・保健課題解決に向けた委員会を開催できたか。 ・応急手当と防火防災のつながりを意識した活動ができたか。				
3	①　多岐にわたる生徒の進路を実現させるとともに、多様化する入試制度に向けて、計画的・系統的な進路指導を実践する必要がある。 ②　新しい入試制度に対応できるような資質・能力の養成に努める。	①　個々の進路実現を踏まえ、多面的に指導にあたる。 ②　「学力の３要素」に基づいた進路指導を行う。	①・スタディサポートや実力診断テスト、各種模擬試験等を実施し、生徒の進路意識を高める。 ・個々の進路希望に応じて、進路補講や面接・小論文指導を行う。 ②・SD「総合的な探究の時間」等を活用し、生徒が主体的に自分の将来について考え、自らの意思を発信できる能力を養う。 ・分野別説明会や進路レポート等を活用し、進路実現に必要な情報を収集し、課題解決に向けて努力する姿勢を養う。 ・チャレンジ検定等を活用し、資格・検定試験の受検を推進する。	①・進路行事、進路結果満足度は９０％を超えたか。 ・スタディサポートや実力診断テストを進路指導に上手く活かせたか。 ・GMARCH 以上の大学合格者を輩出、４年制大学進学者６割程度、民間就職100％を実現できたか。 ②・探究活動やガイダンス等を通して、主体的に考え、自ら発信する力を伸ばすことができたか。 ・より多くの生徒が資格・検定試験に挑戦し進路に活かすことができたか。				
4	積極的に本校の素晴らしさを外部に発信する。	コロナ禍における４０周年記念式典・学校説明会等の実施方法を工夫し、開催する。	・安心・安全に配慮した年４回の学校説明会・部活動体験等の開催。 ・校外で開催される高校説明会等への参加。 ・ＨＰを改善するとともに、学校行事等のリアルタイム更新による情報発信。 ・地域活動への積極的な参加。 ・感染症対策を徹底したうえでの 40 周年記念事業の実施。	・学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・学校説明会の工夫・改善が図られたか。 ・志願者数が増加できたか。 ・40 周年記念事業を成功できたか。				
5	授業等における ICT を活用できる環境は整ってきたので、この環境を活用した授業等の教育活動を模索していく。	ICT を活用した授業を実施し、授業のオンライン化や課題などの配信方法を工夫する。	・多くの学年、組、授業での Google Classroom のクラスを作り、生徒を参加させる。 ・学級閉鎖時や出席停止の生徒を対象に課題や授業の配信を工夫する。 ・ICT を活用した授業等、教育活動の工夫に取り組む。	・Google Classroom のクラスを多くの単位で作ることができたか。 ・オンライン授業や課題発信を実践したか。 ・授業等での ICT 活用は増加したか。				